

第2回大野市屋内型子どもの遊び場整備事業基本計画策定委員会 議事メモ

日時:令和5年2月13日(月) 10時~12時

場所:結とびあ 201、202

【出席者】

- ・全委員(10名)
- ・事務局(政策推進課 2名)
- ・京福コンサルタント株式会社福井支店(3名)

1 開会

2 委員長あいさつ

3 議事

- (1)基本方針について
- (2)コンセプトについて
- (3)ゾーニングについて

○基本方針について

委員：大野の自然や文化など「大野らしさ」をどう落とし込むか考えたところ、アトラクションで子ども達を楽しませるより、荒島の郷のようなアウトドアの視点に目を向けて他にはない、大人も一緒に楽しめるイベントを打ち出したほうが来場者も増えるのではないかな。魅力的な遊具を置いただけでは飽きが出てくるのではないかな。

委員長：3つの基本方針の中で①「いつ来ても楽しく、大野らしい魅力的な遊び場」を重点的にアピールしてもよいのではないかな。資料2の基本方針①の中で「大野らしさ」を取り入れた遊具の設置が強調されているが、「多彩なイベント」についても漠然とせずに「大野らしさ」につながるイベントとした方がよいのではないかな。

委員：とても分かりやすい基本方針で、全てが実現したらいいとワクワクする。いろんな遊具ができるのも楽しみではあるが、固定遊具だけでは誘客に限界があるのではないかなと感じる。行く度に様々なイベントやワークショップ体験などが開催されると、より一層魅力的な施設になりリピーターが増えるのではないかな。

委員長：基本方針に書かれている全てが実現できるとすごいと思う。

委員：私の立場的には「安全で安心な遊び場」がいちばん重視される。楽しければ行くとは思いますが、障がいを持っている子ども達は言葉で伝えても分からないことも多い。絵や動画を使い、目で見て遊び方や遊ぶうえでの注意点などを子ども達が理解できるように「視覚的支援」についても可能であれば対応してほしい。床や壁、遊びのゾーンごとに色を変えることで、子ども達の居心地、安心感、癒しにつながる。私の勤める職場でもトイレに青空や雲を描いたり、部屋も可愛らしく彩られている。障がいを持つ子どもだけの施設ではないが、配慮して頂けるとありがたい。施設内にやすらぎスペースを設けて頂いているが、音楽を流して頂けるといいと思う。

委員長：活発にワクワク、ドキドキするだけでなく、落ち着いた癒しの空間が部分的にあるといい。

委員：雑音に弱い子ども達も多いためワイワイ、ガヤガヤしていない空間や、目で楽しめる空間があったらいいと思う。

委員：先程も委員長の方から話がありましたが、基本方針に書かれていること全てが実現したら凄いものができるのではないかと感じた。先程もご意見があったように、様々な立場の保護者、子ども達が利用する施設であるため、継続して利用して頂けるように様々な要素を盛り込んでほしい。産業政策課としては、町なかの活性化、賑わいにもつながる施設であってほしいと願っている。ワークショップやイベント開催など設定して頂けるとソフト面、ハード面が充実しより一層魅力的な施設になるのではないかと考えている。

委員：基本方針の内容は素晴らしく全てが網羅されていると感じる。「安心安全」は絶対的な部分である。第1回委員会後、東京に行く機会があり家族旅行でディズニーランドに行ってきた。ディズニーランドやキッザニアは入場料が高いのにもかかわらず、何故こんなに来たくなるのか自分なりに考えてみた結果、「飽きさせない工夫」が大なり小なり実施されている。ディズニーであれば新しいゾーンが作られたり、人気のないアトラクションはリニューアルされたり、お金を掛けてつくっている部分はあるが、ソフト面でも「飽きさせない工夫」が沢山されている。「魅力的」「満足」な部分は、遊具の設置だけではなくワークショップやイベントなどにも統一感を持って「大野らしさ」を落とし込んでいく事が重要であり、今後の課題であると考えている。皆さんと知恵を出し合って実現できれば日本一の屋内施設になるのではないかと。

委員：中心市街地活性化を担う立場として委員会に参加しているが、場所の選定に至った経緯が基本方針から抜けているのではないかと。この場所である必要性について、中心市街地活性化との整合性を踏まえて基本方針の中に盛り込んだ方がよいのではないかと。

事務局：「飽きさせない」という意見がありましたが私が感じたのは、「この前来た時と今回はちょっと違うな」と感じられるといいのではないかと。季節ごとのイベント、例えば節分や七夕など、伝統的なものを子ども達が体感できる「飽きさせない」ものができると、活性化にもつながるのではないかと考える。先日、開催されたイベント「冬物語」の時に、裏手の駐車場の一角でソリ遊びができる雪山をイベント時に作られていた。一昨日たまたま前を通りがかった時に子ども達10人くらいがソリで楽しく遊んでいたのを見て、こういう考え方もあるのだと思った。屋内ばかりに頭がいついたが、駐車場を活かして子ども達が楽しめる仕掛けも作れるのだと。ソリ遊びができる雪山も「大野らしさ」を感じる遊びの一つであり、外遊びに飽きたら屋内で遊んでもらうこともできる。「飽きさせない」というキーワードは非常に貴重な意見だったと感じている。

委員長：場所の選定に至った経緯を基本方針に盛り込むことについては、基本方針①～③のどこに盛り込むのがよいか。

事務局：「賑わう」という言葉を入れてはどうか。入れるのであれば①か②ではないかと。

委員長：基本方針の中に新たに独立させるよりも、①か②に要素として盛り込むことができると思う。子ども中心の事業ではあるが「大野らしさ」には地域や商業など、すべてをひっくるめて、子ども達の事を考えていくことで「大野らしさ」が見えてくるのかもしれない。

委員：基本方針①の「いつ来ても楽しく、大野らしい魅力的な遊び場」を「いつ来ても楽しく、賑わいある魅力的な遊び場」にしてはどうか。

委員長：あとから「コンセプト」についても議論するので、基本方針とコンセプトを合わせて考えた方がよい。

委員：「大野らしい」というと「結」が思い浮かぶ。私は3つの基本方針の③「安心で安全な遊び場」について思うことは、建物の中も大事ではあるが建物周辺についても考えていく必要があると思っ

ている。周辺の「大野城」や「お清水」を観光目的として観光バスや自家用車で多くの観光客が訪れている。観光バスが駐車場に入る際に横断歩道を横切って進入することもあり歩行者にとっては大変危険である。また、裏手の駐車場に自家用車を停めて正面入り口まで回りこむ動線は距離もあり、障がいを持つ方にとっては不便ではないかと考える。さらに子ども達だけで来た場合にも危険性を感じる。子ども達が徒歩や自転車で来る動線、車利用者の動線、それらを洗い出す必要があるのではないかと感じた。

事務局：駐車場計画については、3回目の委員会で案を提示する予定でいる。貴重な意見を頂いたので、計画に反映させていきたいと考えている。障がいを持つ方の動線が遠くなるという意見があったが、東側(本町通り)にも若干数ではあるが駐車スペースがあるため、そちらを障がい者用の駐車スペースとして考えている。正面入り口については、建物を正面から見た時の外観「ファザード」を重要視し、市役所も同じく駐車場を設けていない。少し不便には感じるかもしれないが、建物の正面に多くの車が入ると、歩行者と車両の交差が増えることになるため、基本的に正面入り口はどちらかという落ち着いた雰囲気をつくっていききたい。徒歩で来られる方は正面から、車を使って来られる方は裏側からという動線計画も悪くはないと考えている。

委員長：「飽きさせない」という点から考えると、見直していく計画性は大事だと思っている。基本計画はあくまでも理想であり、1年目から全てを整備することは無理である。5年間くらいの長期スパンで、今の段階から物事を考えていく必要があり、利用者が楽しかったと思うものは更新していけばいいし、人気のない施設は改善していけばいいと思う。利用者の声を聞きながら年度ごとに評価し改善していくことが大事であると考えている。マンネリ化して作ればいいという感じは多々あるため、「大野はそんなことしないよ」という部分が見えてくるとよいと思う。基本方針②の「利用者みんなが満足する遊び場」は「みんなが満足する遊び場」でもよい気がするので修正すること。全てに共通して「障がいを持つ」は「障害のある」に修正すること。資料②の基本方針③で出てくる「発育段階」は「発達段階」に修正すること。

○コンセプトについて

委員長：3つコンセプト案を事務局から提示してもらったが、委員会で1つのコンセプトに絞り込む必要がある。今回の計画がイメージできるキャッチコピーになるので、皆さんの意見を頂きたい。3つから選ぶだけではなく、他の言葉を加えたり組み合わせたりしてもらって構わない。

委員：1番目の案か3番目の案ですかね。パッと見た時に自分で想像できた方がよいと思う。

委員：遊びの中で思いやりの気持ちを持って欲しいと思うので「生きる力」というキーワードが入っていたらよいと思う。

委員：「飽きさせない」とか色々な季節ごとのワークショップやイベントを重視するのであれば、「生きる力」というキーワードを入れて、様々な楽しい遊びがある場所をイメージできるコンセプトにしてほしい。

委員：基本方針とのバランスもあるが「生きる力」という言葉自体はいいが、遊び場を楽しんで頂こうという観点から考えると感覚的に「生きる力」という言葉が重く感じられた。

委員長：教育保育の現場にいる者としては「生きる力」は凄くいいと言われているのでイメージがつきやすいが、基本的には一般の市民の方々が見聞きするコンセプトになるので、イメージがつかないとあまり意味がないのかもしれない。補足の説明が加わらないと伝わらないというのはコンセ

プトとしてはふさわしくないかもしれない。私自身も「生きる力」を使うべきか使わない方がいいのか悩んでいる。

委員：私も「生きる力」というのは大事な言葉であると思っている。保育士をしていた時は、この言葉に向かって取り組んでいたが、一般の親の目線から見ると凄くぼやけてしまう。コンセプトは表に出てくる言葉になるのでズバツとキレのいい、例えば「大野、あそび」とかイメージがパツと出てくるものがないのではないかと感じた。「生きる力」をより具体的にすればするほど、行ってみたいという気になるのではないか。あとは「大野」という言葉を一番先に持ってくるのか、コンセプトの中に織り込んでいくのか大事なところである。コンセプトはキャッチコピーとして分かりやすく一瞬で伝わる方がよい。

委員長：大野というキーワードを基本方針とコンセプトのどちらに入れた方がいいと思うか。

委員：私はコンセプトに入れた方がいいと思う。一番はじめに「大野」を出す。県内12市町に屋内型施設ができるわけで、「大野」の屋内型施設が認知されやすくなるのではないかと。

委員：「生きる力」は一般的に分かりにくい言葉であるため、違う言葉にかえた方がいいのではないかと感じた。「大野」の特徴を認知して頂く意味でも「大野」というキーワードを盛り込んだ方がよいと思う。2番目の案をベースにアレンジした方が他市と差別化できるのではないかと考える。頭に「大野」を付けてもよし「大野」で締めるのもよいのではないかと。

委員：「生きる力」というと「教育」のイメージが強くなる。私は2番目の案がいいのではないかと考えた。2番目の案でいうと「あそび」と「遊び」のひらがなと漢字が2つ出てきているので1つでいいのではないかと。例えば「大野の魅力を体感できるあそびの広場」、もっと短くするのであれば「大野の魅力のあそびバ」ビバは喜びを表現する「VIVA」とあそび場、学び場の場所という意味にかけて「ビバ大野」など、すっきりと短い方がよいのではないかと。

事務局：ビバは施設名に取っておきたい。施設名については公募などで愛称募集する予定でいる。

委員：ひらがな表記で「あそびば」にした時に説明ができるようにした方がよい。

事務局：ひらがな表記は優しい、温かいイメージがある。先程、委員長より「改善していく」という言葉があったが、今後この施設が長い期間、利用される中で基本を忘れかけた時に、もう一度立ち返る時に「コンセプト」を読み返すことになると思う。そういう見方もして考えて頂きたい。

委員長：コンセプトについては以下の4つに絞り込んだが、どれがよいか。1大野の魅力を「あそび」で体感できるあそびの広場、2大野の魅力を体感できる「あそび」の広場、3大野の魅力を体感できる遊びの広場、4大野の魅力のあそびバ。「遊び」をひらがな表記するのは、意味があればいいと思う。教育要領や指針の中で使われている「遊び」という言葉が漢字表記されているのは、そこに意味があるからであって、敢えて大野では「遊び」をひらがなで表記することで、「大野の遊びはこういうものなのだよ」ということが、そこに込められていれば今後、施設を改善していく時も何故ひらがな表記にしたのか立ち返ることができるのではないかと。もう一つは大野の魅力を常に意識して「今の魅力は何なのだろう」とか、原点に戻る意味でもひらがな表記に意味を持たせることはできるので2番目はよいのではないかと。大野の遊びは一般的に使われている遊びだけではなく、商業や地域をひっくるめた遊びを目指しているから敢えて漢字表記ではなく、ひらがな表記の「あそび」を採用する。子ども達だけでなく大人や障がいのある子ども達、すべての人たちが遊ぶ場として、ひらがな表記にしたことを説明ができればいいのではないかと。

事務局：それではコンセプトについては、2番目の「大野の魅力を体感できる「あそび」の広場」で決定さ

せて頂きます。

○ゾーニングについて

委員長：事務局から提示されたゾーニング案について皆さんの意見を伺いたい。

委員：避難場所はどの様に考えているか。

事務局：現在の体育館の避難口をそのまま活かします。

委員：2階からの避難についても階段を設置するなど配慮が必要ではないか。

事務局：具体的な避難経路などについては、これから計画する予定です。

委員：法律上、避難口は必要なものなのか。

事務局：そのように捉えている。私の知っている限りでは2方向以上の避難経路を設けないといけないと認識している。これから具体的な平面プランを検討していく上で避難経路についても詰めていきたい。

委員：体育館と商工会議所の間とスペースは、商工会議所の駐車スペースとして利用しているため、バスの乗降場が邪魔になる。可能であれば南側に移動してほしい。

事務局：南側に移動することにする。

委員：ロビーに休憩できるスペースを設けてほしい。

事務局：ロビーには通常、椅子やソファ、テーブルなどがあって、そこで待ち合せしたり休んだりできるスペースになっているので検討したい。

委員：体育館西側に外部からの倉庫が設置されている。現在、私どもの用具も入っているので今後どうするのか詳細が決まった際には報告頂きたい。

委員：2階に上がる階段はどこに設置する予定か。

事務局：現在のゾーニングでは記載していないが、1階の休憩室内に階段を設ける計画である。

委員：2階の遊具スペースがゾーニングでは、体育館の半分くらいになっているが全面にネットを張ることは可能なか。ネットがない部分はどんなイメージになるのだろうか。子どもが落下しないような対策は可能なか。

委員長：2階部分の遊具は何をイメージされているのか。

事務局：ネット遊具や背の高い遊具の組合せを考えている。予算の関係もあるため2階の遊具規模についてはイメージとして捉えてほしい。

委員：ネットを張るだけなら特に問題はないが、2階に部屋をつくるとなると体育館の空調の問題も出てくる。

委員：加賀のにこにこパークのようなネットを全面張るのであれば、雲を見立てたネットの真ん中に大野城が出ている感じもよいのではないか。

委員：フリーエリアは何も設置しないのか。

事務局：隣に水の学校という施設があり、年間を通じて市外から遠足に来る子ども達がいる。フリーエリアを使って昼食をとったり休憩したりできる自由度のあるスペースを確保している。

委員：水の学校から入れる玄関口があるが、そのまま活用するのか。

事務局：現段階では正面玄関から入ってもらう方向で考えている。

委員：現在の玄関口を活用すれば、水の学校やお清水へも行きやすいのではないか。

・フリーエリアを全面芝生にすることは可能か。

事務局：人工芝を張ることは可能。

委員：有終南小学校のグラウンドも芝生化する話を聞いている。室内でも緑豊かな場所があっても面白いのではないかと思う。大野は季節を楽しむことができる。薪ストーブを設置して視覚的に楽しむなど室内でも季節を感じることができる工夫があっても面白いのではないか。

委員長：すべての子ども達が遊べる場所なので、自由度を考えるとフリースペースも必要である。

事務局：イベントなども開催しやすくなると思っている。

委員：幼児スペースの床面は段差ができるのか。

事務局：床面はフラットで考えている。

委員：休憩スペースは1箇所だけなのか。

事務局：複数設置することも可能である。ステージ側の休憩スペースについては、2階部分を確保するために既設のステージは撤去し、1階部分は体育館の床面とフラットにする計画である。事務局としてはステージの活用について非常に悩んだところではあるが、2階スペースを西側に配置した関係で、ステージを無くす案を採用した。

委員：ステージ下の収納も無くなるということか。

事務局：そういうことになる。ステージを残して1階休憩スペースを設置し、さらに2階をつくることは高さに無理があるためステージを無くす方向で検討を行った。

委員長：フリーエリアのトイレ側の壁を有効に活用してはどうか。例えばプロジェクションマッピングを使用して壁面や天井に星空を映し出したり、イベント時にはイベントタイトルを映し出すなど、ハピリンでも使用している。天井もありだが壁面もいいのではないか。

委員：やすらぎスペースに行くのに、ザワザワした遊びのスペースを通過してわざわざ行くのか疑問である。ステージ横が一番静かな場所だとは思いますが、距離もあるので可能であればロビーから近い位置に設けてほしい。多目的ルームはどのような目的で利用されるのか。

事務局：ワークショップルームと多目的ルームを設けていて、会議などの際には2部屋をつなげて一体的に使えるようにしている。

委員：休憩室と兼ねることはできないのか。

委員長：やすらぎスペースの配置については、再度検討してください。

委員：先程、避難経路の話があったが遊びの要素も含めて、2階からの避難経路としてすべり台を設置して活用してはどうか。フリースペースの芝生化の話もあったが、維持管理や衛生面についても検討する必要があるのではないか。体育館の天井は2階をつくっても更に高いと思うが、加賀のここにこパークのようなイメージを持たれているのか。2階から天井までの空間をうまく利用した方がよいと思う。

事務局：コンセプトのところでもあったが、思いつき遊ぶという意味では建物全体を遊び場にするイメージである。単なる遊具を置くだけでなくネットなどを張り巡らせて体育館の高さを有効に活用したいと考えている。

委員：1階の床のイメージはどういうものを考えているのか。

事務局：基本的に体育館の床を張り替えるつもりはない。フリーエリアは人工芝を張る話も出ましたが、ゾーン別にシートを張るイメージである。また、乳幼児や幼児のあそびゾーンについては転んでもケガをしないように、クッション性のある素材のシートや仕切りを設置する予定でいる。

委員長：2階のギャラリー(キャットウォーク)は現状の幅で綺麗になるイメージなのか。

事務局：ギャラリーは、子ども達がすれ違いできる程度の幅に広げる計画である。

委員長：2階のギャラリーから大野城を見ることができるのはいいと思う。体育館の2階の側面はすべて窓なのか。

事務局：2階の側面は全てガラス窓になっている。ガラス窓をそのまま活かせば大野城を見ることは可能である。

委員長：ベンチなどを設置することは可能か。

事務局：キャットウォークにはベンチを設置するスペースは確保できないが、休憩スペース側に大野城を見ながら休憩できるベンチが置けるように検討してみる。

委員：多目的ルームとワークショップルームを併設し、2部屋をつなげて広く使用することも可能なスペースを検討して頂いたことは、会議にも利用できるため非常に感謝している。

事務局：本日は参考になる沢山のご意見を頂き有難うございました。本日、皆様からのご意見を踏まえて修正をさせて頂きたいと思っている。ここで決まった計画がそのまま反映されるとは言い切れない。今後は、委員会で決まった基本計画をベースとして、市役所内のプロジェクトチームや市議会などの意見を聞きながら改良していく流れになることを、ご理解頂きたい。

委員長：本日の議事とおり、基本方針、コンセプト、ゾーニングについて議論を進めて参りました。全体を通して何か質問があれば承ります。私から一つだけ、資料2の基本方針1で「子どもたちが思いっきり体を使って遊ぶことができる施設」の身体的な遊びだけではなく心身共にという意味だと「体を使って」という文言を除いてもよいのではないか。「子ども達が思いっきり遊ぶことができる施設」として下さい。

8 閉会

次回

第3回委員会は、3月10日(金)午前10時～